

令和 六 年度

四天王寺東高等学校入学試験問題

国 語

注意 答はすべて解答用紙に書きなさい。
句読点も一字に数えます。

一次の二つの文章を読んで、後の問いに答えなさい。①②は形式段落です。

【文章Ⅰ】

①何かあると、ひとまずChatGPT（チャットGPT）に相談してしまう日々である。二日酔いの解決策を尋ねて、「お酒を飲まなければいいのです」と返ってきたときには脱力したが、全国紙ではとても書けないような悩みを打ち明けて、**A** **カクシン**に迫るコメントをされたときには動揺し、しばし己を見つめ直した。AI（人工知能）恐るべし。

②現時点では見当違いな回答も多々あるにせよ、技術の改良とデータの蓄積によって、その精度は上がっていくはずである。そうなったときに、果たして人間相手に悩みを打ち明ける必要はあるのだろうか？

③このような①AIと人間との比較は、心の相談に限らず、あらゆる仕事について議論されている現代的問題であろう。私の見る限り、AIの情報処理的回答には限界があるから、全面的に依存するのは危険であると②③。人間ならではの、感情を汲み取ったり、文脈を読んだり、新しい着想を得たりする能力、のあくまで補助手段とすべきだという見解が多いようだ。

④しかし、ここに疑念がある。このような見解には、AIには持ちえない人間的能力への賛歌があるように見えるのだが、心の悩みの多くが人間関係の悩みであることを思うと、そもそも人間こそが傷つけ、悩みをもたらす当のものではなかったか。人間は本当に素晴らしいのか？

⑤将来的にAIが悪意をもって暴走することへの懸念もあるようだが、現状のChatGPTを見る限り、私が決定的に優れていると思うのは、その安全感だ。人間に悩みを打ち明けるとき、私は不安になる。負担になるんじゃないか、軽蔑されるんじゃないかと、逡巡する。相手の心が怖いのだ。**a**がないし、**B** **機嫌**を損ねることもない。言葉の裏を読まなくてよい。時間や場所を気にする必要もない。AIの器は無限だ。心がないからだ。私が何を言おうとお構いなしに一定の反応を返してくるとわかっているから、あらゆることを相談できる。

⑥臨床家として思う。この安全感はきわめて貴重だ。**b**長らくひきこもり、ときに死を考える青年のように、**P** **深刻に追い詰められている人**にとって、なによりも難しいのは助けを求めることである。その心は自己を責め、他者を深刻に恐れている。悩みを打ち明けることで余計に傷つくかもしれないと怯えているとき、そう簡単には人間相手に「つらい」と言えない。

⑦そういうとき、スマホで「苦しい」とか「死にたい」と打ち込む宛先があること

が、どれだけ貴重なことか。そこには世界に対するかすかな希望が芽生えている。そして、その言葉を表裏なく打ち返し続けてくれる心なきプログラムがいかにありがたいか。この希望の芽は脆弱で、わずかな不信の兆候によって折れてしまいやすいからである。

8 心の相談の本質は、いかなる言葉が返ってくるか以上に、誰かに助けを求めたことそのものにある。

c、そのつながりがしぶとく持続することにある。重要なことは、③希望の芽を摘まないことなのだ。それが少しずつ広がり、自分や他者への信頼へと育っていくことが、心の回復である。そのための手段の一つとして、AIに備わる「何を言っても大丈夫」という安全感には得難いものがあると私は思う。現在、AIを活用したメンタルヘルスサービスが様々に試みられているが、人々の苦悩に安全にリーチするやり方が洗練されていくことを願っている。

9 ただ、問題は人間であった。AI論とは常に人間論の陰画である。だとするならば、心の相談におけるAIの安全に對置されるのは人間の危険である。個々人の心には偏りがあり、その容量は有限だ。人間は人間を理解し損ない、期待を裏切り、ときに傷つける。希望の芽を摘んでしまう。「心がない」からこそその安全性という面で、人間はどうしてもAIより劣る。

10 しかし、ここに心の不思議がある。思い出してほしい。あなたがかつて誰かと深い信頼関係を築いたとき、そこにあったのは一直線の平坦な道のみではなく、右往左往しながらのデコボコな細道ではなかったか。安全とは言い切れず、危険でもありうる人間と、それでも勇気を出してつながり続け、信頼したり、不信を抱いたり、そしてまた信頼を回復したりを繰り返す。この安全と危険のリズムの中で、かすかな希望は丈夫な希望へと育つ。

11 心の相談において、人間の役割が未来にもあるとするならば、それは人間の素晴らしさによってではなく、④その愚かしさ、あるいは弱さによってではないか。そう言いたくなるが、その弱さが深刻に他者を傷つけるのもまた事実だから、開き直るわけにもいかない。人間の責任は重い。心の回復にとってまず必要なのは安全であることを思うと、やはりAIに希望を見いだしたくなる。

12 という風に話がグルグルし始めたので、ChatGPTに読んでもらい助言を求めたところ、逆に深い洞察力だと褒められた。だけど、あんまりうれしくない。結局、怖くはあるけれど、人間に読んでもらわないと収まらない私がいるのである。

【文章Ⅱ】

膨大な情報を学習して文章を生む対話型AI（人工知能）は、人を超える万能の道具にも思える。だが、認知科学がDセンモンで人の言語学習に詳しい今井むつみ慶應大学教授は、AIは言葉の「意味」をわかっていない、と限界を明かす。今井さんにAIと人の違いを聞いた。

「相手の要求をわかっているようにふるまう、それがものすごくまい機械」

今井さんは雑誌の対談で、ChatGPT（チャットGPT）の印象をこう語った。これを受けて言語学者の川添愛さんは、チャットGPTは自然な単語の列を生成し、人が「良い」と判断しそうな答えを追求しているようだ指摘。一方で「言語と現実世界を結ぶ『意味論』のレベルが入っていない」と述べた。

今井さんは、子どもが言葉を習得する過程や、人の知識とは何かについて研究してきた。数や色、「愛」など言葉には抽象的な概念を指すものもある。言葉の意味を真に理解するには、現実世界から受け取る情報について、身体的な感覚を持つ必要があるというのが今井さんの考えだ。認知科学の世界では、これを「記号接地」と呼ぶ。

視覚と聴覚にEショウガイがあつたヘレン・ケラーは、冷たい水に触れながらwaterという言葉を教わったとき、初めてその意味を理解した。人は「梅干し」と聞くと口につばが湧く。こうした言葉と感覚が結びつく記号接地を重視する今井さんは、身体のないAIは言葉の意味を理解していないとみている。

チャットGPTと人との違いはほかにもあるのか。今井さんに尋ねると、「学習の仕方が正反対」という答えが返ってきた。チャットGPTは、最初に膨大な言語データを与えられ、学習が始まる。その後、データの統計的な規則性を抽出し、この言葉の後にはこの言葉がふさわしい、という情報処理をしながら文章を生成する。「一言でいえば『次の単語予測機』です」

（令和五年七月二十一日付朝日新聞記事より真田香菜子「論壇 Bookmark」）

問1 線AとEの漢字は読みをひらがなで書き、カタカナはそれぞれ漢字に直しなさい。

問2 空欄aとcに入る言葉として適当なものを次から一つずつ

選び、それぞれ記号で答えなさい。（同じものを二度以上用いてはいけません）

ア そして イ しかし ウ なぜなら エ ただし オ たとえば

問3 — 線①「AIと人間との比較」とありますが、これに関する一般的な傾向

に対して筆者はどのように考えていますか。適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 一般的傾向としては、AIには人間特有の能力には追いつけないところがある。なので人間優位で考えるべきとされているが、筆者は、その優位性の指摘には賛同していない。

イ 一般的傾向としては、AIには人間特有の能力には追いつけないところがあるけれども、AI優位で考えるべきと見られているが、筆者も、その優位性の指摘に賛同している。

ウ 一般的傾向としては、AIは人間特有の能力に追いつくことができるため、AI優位で考えるべきと見られているが、筆者は、その優位性の指摘に賛同していない。

エ 一般的傾向としては、AIは人間特有の能力に追いつくことができるけれども、人間優位で考えるべきと見られているが、筆者もその優位性の指摘に賛同している。

問4 空欄② ② 》に入る言葉として適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 胸をなでおろしている イ とんびが鷹たかを生んでいる
ウ 警鐘けいしやうが鳴らされている エ 捕らぬ狸たぬきの皮算用たねをしている

問5 — 線③「希望の芽」とありますが、この内容として適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 誰かに悩みを打ち明け、その悩みが解決に向かうこと。
イ スマホで自分の苦しみや悩みを伝えられる場があること。
ウ 折れてしまいやすい脆弱さがなくなつて折れずにいること。
エ 人に自身の悩みを相談し、その人とのつながりを持つこと。

問6 — 線④「その愚かしさ、あるいは弱さ」について、次の各設問に答えなさい。

- (1) この具体的な内容が書かれている段落の番号を答えなさい。
- (2) この④を抱えた人間とつながっていく過程を比喩的に表している部分を本文中より十六字で抜き出しなさい。

問7 ……線Pの人物が、A Iに自身の心の悩みについて相談するということを、
【文章Ⅰ】の筆者の東畑氏と【文章Ⅱ】の今井教授に伝えたとします。その時
に今井教授が発言すると考えられることを次のように表すとき、空欄に当ては
まる言葉を、【文章Ⅰ】【文章Ⅱ】の論旨を踏まえ、指定された字数・形式でそ
れぞれ答えなさい。

「東畑さんは、おそらくA Iには
1. 四字で抜き出す から安心して悩
みを話してみるといいとおっしゃるでしょう。けれども、私が思うに、A Iは、あ
なたの悩みについて、
2. 四字で抜き出す できていないので、
3. 十五字〜二十字で書く と思いますよ。とりあえずA I自身が学習
して習得した言語のつながりの
4. 三字で抜き出す を考えながら文章
を生成し、回答するだけなのです。」

二 次の文を読んで、後の問いに答えなさい。

「わたし」はフランスに語学留学している。趣味のランニングの最中に公園で知り合
ったアンナと仲良くなり、ある日自宅に招いた。

引き出しを開けて、妹の写真を出した。彼女がハンプルクから送ってきた、舞台の写
真。

妹なの。そう言うと、アンナは目を輝かせた。

「ダンサーなのね。とても可愛^㉔らしいわ。お人形みたい」

妹に^Xを感じているくせに、彼女が誉められるとうれしいと思ってしまう。そん
な自分が不思議だった。それとも、それが家族というものののだろうか。

「ユウもバレエをやっているの？」

「やってたの。でも一年前にやめた」

「どうして？」

わたしは首を傾げた。今までは簡単なことばでごまかしていた。才能がないことがわ
かったとか、毎日の練習に耐え^㉕られなくなったとか、もっと遊びたくなったとか。だ
けど、今はなぜか、本当のことを話してみたくなった。

「子供の頃からずっとバレエばかりやってたわ。母がバレエ教師だったし、プロを目指すように言われていたから」

友達ともあまり遊ばず、お菓子も食べてはいけなかったと言われた。苦しいことばかりだったけど、母はいつも言った。「いつか、今頑張ったことに感謝する日がくるから」

もちろん、中学生になる頃には気づいていた。自分にはコンクールで優勝するほど劇的な才能も、世界に羽ばたく華麗な※プリマになるほどの実力もない。

それでも、教室の中ではそれなりにうまい方でいられたし、高望みをしなければプロの※コールドとしてはやっていけるだろうと思っていた。母のバレエ教室を継いで、バレエ教師になることもできる。努力していれば、一度くらいは主役を張れることもあるかもしれない。

アンナは黙って、わたしの話を聞いていた。

「でもね。妹は全然違ったの」

五歳も年下で、歩くのも食べるのもずっとわたしよりへたくそだったはずなのに、バレエに関してだけは、彼女は簡単にわたしに追いついた。

いや、追いついたわけではなく、※グランジュテのひと跳びでわたしを追い越し、そのあとはずっとわたしの先を走っていたのかもしれない。

小学生のときから彼女の才能は際だっていた。いくつもの児童コンクールで賞を取った。その頃は、素直に彼女の活躍を応援できていた。

けれども妹が中学生になる頃には、わたしは彼女の踊りになるべく見ないことに決めた。五歳も年下の子を意識しても仕方がない、そんなふうに自分に言い聞かせて。

だが、年齢差なんて才能の前ではまったく無意味だった。

わたしの方が長く練習しているのに、※ジュテの高さもパの正確さも、表現力ですら、妹の方が上だった。

「①たぶん、わたし、負けたの。妹にではなく自分に」

フランス語では「負ける」は「失う」と同じ単語だ。だから、自分の発したことは、わたしの耳にはこう聞こえた。

——わたしは失った。

わたしが必死にあがいて、やっと辿り着く場所に、朝美はひどく軽やかに到達する。それだけではなく、そこでもう一度跳躍して、もっと先まで。

もちろん彼女だって努力している。毎日練習をしているのはわたしと同じだ。だが、彼女の努力は新鮮なスパイスのように、一振りで鮮やかな効果を上げる。わたしの努力はしけた胡椒こしょうのようなものだ。②どんなに振りかけても、たいして味は変わらないのだ。

自分に届く範囲で頑張ればいい。そう思う気持ちは、本当の才能を目の前で見せつけられ続けて、折れてしまった。

一年前に、「もうやめたい」と言ったとき、母は止めはしなかった。母だって、わた

しに才能がないことはわかっていたのだろう。

母の教育の結果は、妹がちゃんと出してくれた。だからわたしがやめたって母の努力は無駄にはならない。

それでも心のどこかで、過去のわたしが悲鳴を上げる。

——わたしがあんなに頑張った時間は、いったいどこにいつてしまうの？

友達と遊びに行きたかった。お菓子だって食べたかった。疲れた日は練習なんかせずに眠っていたかった。

頑張ったことに感謝する日なんて、結局こないのだ。

「たとえば小説家は、小説が書きたいと思うから小説家になるんでしょう。画家も絵を描きたいという衝動にかられて、絵を描く。大人になってはじめていい。でも、クラシックバレエのダンサーは、踊りたいと思う前から訓練させられる。子供のときから訓練して、そうして才能のある子を見つけ出して、振り分ける。もし、大人になってからバレエダンサーになりたいと思っても、もう遅い。そういうシステムになってる」

そうして一 Y の才能を見つけるために、ほかの子供たちの努力は簡単にうち捨てられる。

それは砂金と砂の違いみたいなものだ。 ③ わたしはただの砂だった。

アンナが口を開いた。

「ピアノとか、ヴァイオリンもそうね。子供の頃から訓練しないと、プロにはなれない。日本の伝統芸能、ノーとかカブキとかはどうなの？」

「ああいうものも、もちろん子供のときから訓練するわ。でも、少し違う。普通の子供が歌舞伎役者を目指すために、小さいときから練習させられることはない。訓練するのはそういう家に生まれた子で、そういう子はあまり脱落せずにプロの歌舞伎役者や能役者になる」

「それもずいぶん変わってる」

「そうね」

けれども、能や歌舞伎のシステムならばわたしのような脱落者を出すことはない。

自分で望んで目指して負けたのなら、納得できる。でも、子供の頃のわたしには選ぶことなどできなかった。押しつけられて、それでもその先になにかがあるのならと思つて頑張ったのに、結局 ④ そこにはなにもなかった。

そのことに心が納得できないでいる。

アンナはしばらく考え込んでいた。やがて口を開く。

「たぶん芸術というものの自体が、犠牲を必要としているのよ」

いきなり投げかけられた観念的なことばに戸惑う。彼女はもう一度言い直した。

「バレエというものが、あなたみたいな人を必要としているの。あなたのように振り分けられた人がいるから、一 Y の才能が見つけれ出せた。あなたのことばを借りれば、砂を拾い集めなければ砂金は見つからないの。カブキのシステムは違うけど、そのシス

テムではカブキは作れても、バレエは作れないわ」

それは理屈ではわかっている。でも心が納得しないのだ。そう言いかけたとき、アンナは続けてこう言った。

「だから、⑤ あなたもバレエという芸術の一部なのよ」

（『金色の風』近藤史恵）

《語句注》

※ プリマ……主役を踊るバレリーナ。

※ コールド……一人で踊るのではなく集団群舞をする役のこと。

※ グランジュテ……大きなジャンプを意味するフランス語。バレエの動きの一つ。

※ ジュテ……バレエの動きの呼び名。あとの「パ」も同様。

問 1 ——線①・②と同じ意味・用法の語を含む文を次から一つずつ選び、それぞれ

記号で答えなさい。

① ア あの人が来たらしい。 イ 子供らしい遊びだ。

② ア 先生にほめられる。 イ 幼い子でも答えられる。

問 2 空欄 X・Y に入る語として適当なものを次から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

X ア リスペクト イ ジレンマ ウ トラウマ

エ ストレス オ コンプレックス

Y ア つまみ イ 蹴り ウ 握り エ 振り オ ひねり

問 3 ——線①「たぶん、わたし、負けたの。妹にではなく自分に」という発言について説明した次の文章の空欄に合うよう十五字以内で答えなさい。

バレエの才能で妹に負けたのではなく、妹のバレエの才能を目の当たりにして、
【 】ことを「自分に負けた」と表現している。

問 4 ——線②「どんなに振りかけても、たいして味は変わらないのだ」について、「振りかけ」ることと「味」がそれぞれたとえているものは何ですか。次の文章の空欄に合うように、A・B共に二字で本文中より抜き出して答えなさい。

どんなに A しても、たいして B は変わらないのだ

問5 — 線③「わたしはただの砂だった」とあるが、この表現に込められた「わたし」の気持ちを説明したものととして適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 長きに渡って我慢と努力を重ねたが実を結ぶこともなく、自分の現実を突きつけられたことに対してのむなしさを感じている。

イ 色々な制限を強いられてきたことに対する後悔と、妹だけに期待するようになった母に対しての割り切れないさを感じている。

ウ 自分の長年の努力を打ち捨ててくるようなバレエという業界そのものに対し、距離を置きたいと感じている。

エ 自由を制限されてきた環境に対してのいら立ちと、黙って話を聞き続けるだけのアンナに対してさみしさを感じている。

問6 — 線④「そこ」とはどのような場所を指していますか。「犠牲」という言葉を必ず用い、次の文の空欄に合うよう十五字以内で答えなさい。

バレエダンサーを目指す子どもが、【 】ことであどり着くことができない境地。

問7 — 線⑤「あなたもバレエという芸術の一部なのよ」について、この部分のアンナの発言について説明したものととして適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「わたし」のうらやむ気持ちに理解を示しながらも、バレエを作り上げるシステムの在り方には不信任を持っている。

イ 「わたし」の割り切れない気持ちに寄り添いながらも、バレエへ費やした情熱は無駄ではないと労わっている。

ウ 「わたし」の持てあます後悔に同情しながらも、バレエへかけた時間や努力は有意義であったと励ましている。

エ 「わたし」の行き場のない怒りに共感しながらも、バレエ界にとっては不可欠な犠牲であったと反論している。

三 次の文章は『徒然草』の一節です。読んで、後の問いに答えなさい。

人は己おのれをつづまやかにし、おごりを退けて、財たからをもたず、世をむさぼらざらん

自分の生活を質素にし、ぜいたくを

世間的な名誉や利益を求めない

ぞ、① いみじかるべき。昔より、賢き人の富めるは稀まれなり。
のが、

唐土もろこしに ※ 許由きよいうといひつる人は、さらに身にしたがへる A たくはへもなく、② 水

まったく

をも手して捧ささげて飲みけるを見て、※ なりひさこといふ物を人の得させたりければ、

人が与えたところ、

ある時、木の枝にかけたりけるが、風にふかれて鳴りけるを、③ かしがましとて捨

てつ。④ また手にむすびてぞ水も飲みける。いかばかり心のうち涼しかりけん。

手ですくい上げて

※ 孫晨そんしんは冬月ふゆのつきにふすまなくて、藁わら一束ひとつかありけるを、ゆふべにはこれにふし、⑤ あし
ふとんがなくて、

たには B をさめけり。

唐土の人は、これをいみじと思へばこそ、記しとどめて世にも伝へけめ、⑥ これ

伝えたのだから、日本

らの人は、語りも伝ふべからず。
人は

《語句注》

※ 許由……人名。

※ なりひさこ……ひょうたんの実を取り去って作った、水をくむ器。

※ 孫晨……人名。

問 1 ———線 A 「たくはへ」、B 「をさめけり」の読み方を現代仮名遣い（すべてひらがな）で書きなさい。

問 2 ———線 ① 「いみじかるべき」について、

(1) 意味として適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア たいへん立派である

イ 非常に良くない

ウ どうでもよいことだ

(2) ———線 ①の表現について次のように説明するとき、空欄に入る言葉を指示に従って答えなさい。

助詞「A 本文中の一字」によって、①の文末の助動詞の形が

変わり、この部分の意味が強調されている。この強調のための文法上の法則を「B 四字以内」の法則」という。

問 3 ———線 ② 「水をも：飲みける」とあるが、このようにしていた理由として最も

適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア まだひょうたんを手に入れられていなかったから。

イ 持ち物が特になく、水を大切にしていたから。

ウ 当時としては水が貴重なものであったから。

エ 家財をまったく持っていなかったから。

問 4 ———線 ③ 「かしがまし」、———線 ⑤ 「あした」の意味として適当なものを次

から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

③ ———ア さわやかだ イ うるさい ウ 涼しい エ 目ざわりだ

⑤ ———ア 晴れの日 イ 翌日 ウ 朝 エ 昨日

問 5 ———線 ④ 「また：飲みける」のようにした結果、許由はどういう気持ちにな

ったと筆者は考えていますか。次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア とてもすがすがしい気持ちになったと考えている。

イ ひどくもの足りない気持ちになったと考えている。

ウ 自身のしたことを深く後悔していると考えている。

エ 特にこだわりもなく、無欲なままできると考えている。

問6 許由と孫晨のエピソードは何を伝えるためのものですか。これを説明して
る次の文中の空欄にあてはまる言葉を、指定された字数で本文中より抜き出し
て答えなさい。

「A 三字」というのは、名誉や利益を追求せず、またぜいたくをせ
ずに「B 五字」な生活を送るものであるということ伝えるための
もの。

問7 線⑥「これらの…伝ふべからず」とありますが、ここからうかがえる筆

者の主張とはどういうことですか。次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 日本人は、許由と孫晨の業績のすばらしさを分かっていないということ。
- イ 日本人は、水や布団を含めて様々な物を大事にしているということ。
- ウ 日本人は、質素な生活を送ることの意義が分かっていないということ。
- エ 日本人は、唐土の人と同じくらいには記録を残さないということ。

問8 『徒然草』は随筆です。これについて次の問いに答えなさい。

(1) 作者名を漢字で書きなさい。

(2) 同じく随筆に入る作品を次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 万葉集 イ 方丈記 ウ 竹取物語 エ 平家物語
- ア 大伴家持 イ 松尾芭蕉 ウ 鴨長明 エ 清少納言

(3) (2)の作品の作者を次から一つ選び、記号で答えなさい。